学校便り
No.１７

五輪の書

令和８年８月３１日（月）
文責：池田　誠

最大震度７「令和８年熊本地震」が発生

７月２８日（火）１６時２７分に令和８年熊本地震が発生し、宇城地区を中心に熊本市南部から八代地区おいて甚大な被害が出ました。関連死も含め３８人の尊い人命が奪われ、１か月以上経った現在も多数の方々が避難所での生活を余儀なくされています。幸いにも武蔵小学校の保護者や子どもたちが被災したという連絡は受けておりませんが、親族や知人の方が被災したというご家庭もあるのではないでしょうか。一刻も早い復旧を願うとともに、犠牲になられた方々に深く弔意を表します。

本日、始業式の冒頭において、令和８年熊本地震で亡くなられた方々に哀悼の意を込め、職員・児童全員で黙祷を捧げました。ご冥福をお祈りいたします。

知能は周りの環境によって上がったり下がったりします

２学期がスタートしました。この学期は運動会や芸術鑑賞会、見学旅行や修学旅行など、大きな行事が控えています。子どもたちには貴重な体験や経験をたくさんしてほしいと思っているところです。ただ、学校での日々の学習も始まります。行事だけではなく、普段の学習にも力を入れてほしいので、始業式に次のような話をしました。

みなさん、おはようございます。今日から２学期のスタートです。

２学期は運動会や芸術鑑賞会、見学旅行などの大きな行事があります。楽しみですね。でも、これから毎日、学校での学習が始まるのかと思って、気が重くなっている人もいるかもしれません。特に上の学年になると「学習が難しくなってきたなあ」とか「この教科は苦手だから授業を受けたくないなあ」と思っている人もいるでしょう。

ところで、国語や算数、３年生以上では社会や理科も学習しますが、それぞれ学習する中身が違います。でも、「文章を読んで内容を理解したり何かに気づいたりする力」、「話合いの中で話したり聞いたりする力」、「どっちが大切か比べたり、こっちが良さそうだと決めたりする力」、「事実を詳しく調べたり想像を膨らませたりする力」は、どの教科でも使いますね。こういう問題を解決していくために必要な力を「知能（IQ）」ということがあります。よく「あの人は頭がいい」とか「賢い」なんていうときの「頭の良さ」のことです。

皆さんの中には、頭の良さは生まれた時に決まっていて、頑張っても関係ないと思っているかもしれません。でもね、実はそうではないのです。頭の良さは自分の身の回りの様子によって変化するのです。

今話した「知能」について、興味深い研究をした学者がいます。この人は、今から１００年前から現在までの世界中で行われた知能検査を集計したのです。そしたらある事が分かりました。それは、「どこの地域でも年が進むにつれて、ほとんどの知能検査の成績が良くなっている」ということでした。

簡単に言うと１００年前の小学生より、今の小学生のほうが知能検査の成績が良かったということです。昔の小学生より、今の小学生のほうが賢いのですね。

ところが、別の学者が現代の知能検査の結果を集計したところ、一部の国や年代では逆に知能検査の結果が年々下がっていることが分かりました。日本もここ３０年で知能検査の成績が下がっているそうです。

どうしてこんな風に知能検査の結果が良くなったり悪くなったりするのかは、はっきりした原因は分かっていません。どうやら、生活の仕方が変わったり、教育の中身が変わったり、食べ物が変わったり、テレビやインターネット、AI （人工知能）の影響など、周りの環境の変化が大きな原因のようです。頭の良さは自分の身の回りの環境によって変わるということですね。

皆さんの中には、頭の良さは生まれつきだから、苦手なことをあきらめている人もいるかもしれませんが、そうではないということです。自分の身の回りを学習しやすい環境に変えたり、生活の習慣や食べ物を変えたり、テレビやゲームだけではなく、人と話す時間や本を読む時間をふやしたりすると、頭の良さは変わる可能性があるということです。

この２学期、苦手な学習や苦手な教科があったら、今の話を思い出して、頑張ってほしいと思います。

お話を終わります。

情報が入ってくるだけのスクリーンタイム（テレビ、スマホ、タブレットの使用過多）は、脳の発達を遅らせるそうです。読書や体験活動、操作活動（手指）、コミュニケーション、質の高い睡眠、バランスの良い食事を日常生活の中に複合的に取り入れることで、効果的に脳が発達すると言われています。